

< あなたの治療について >

血内 - Epcoritamab (1c) - リンパ腫 - q4w

今回の治療は、Epcoritamab という治療法で、エプキンリという注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎治療全体の流れ

今回の化学療法は、28日間が1コースとなっています。各コースの1、8、15、22日目に皮下注射を行います。この治療を4週間（28日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~4日目	5~7日目	8日目	9~11日目	12~14日目
①	プレドニゾン (ステロイド)	内服			お休み			お休み
②	アセトアミノフェン レスタミン (熱・アレルギーを抑える薬)	内服		お休み			お休み	
③	エプキンリ (抗がん剤) 1日目 0.16mg/body 8日目 0.8mg/body	皮下注						

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	15日目	16~18日目	19~21日目	22日目	23~25日目	26~28日目
①	プレドニゾン (ステロイド)	内服			お休み			お休み
②	アセトアミノフェン レスタミン (熱・アレルギーを抑える薬)	内服		お休み			お休み	
③	エプキンリ (抗がん剤) 15、22日目 48mg/body	皮下注						

★ 注射後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

エプキンリによる

●好中球減少 ●感染症 ●サイトカイン放出症候群 ●注射部位反応（紅斑、発疹、そう痒感、硬結等）

◎特徴的な副作用について

エプキンリにおける

●サイトカイン放出症候群

「吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸（どうき）、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血」などの症状

●免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群

「言葉での表現ができない、言葉や状況が理解できない、人や物の名前が分からない、いつもできていたことがうまくできない、一時的にボーっとする、意識の低下、意識の消失、筋肉に力が入らない、顔や手足の筋肉がぴくつく、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、めまい、頭痛、視力の低下、深く大きい呼吸、手足のふるえ、精神の混乱」などの症状

●腫瘍崩壊症候群

「意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ」などの症状

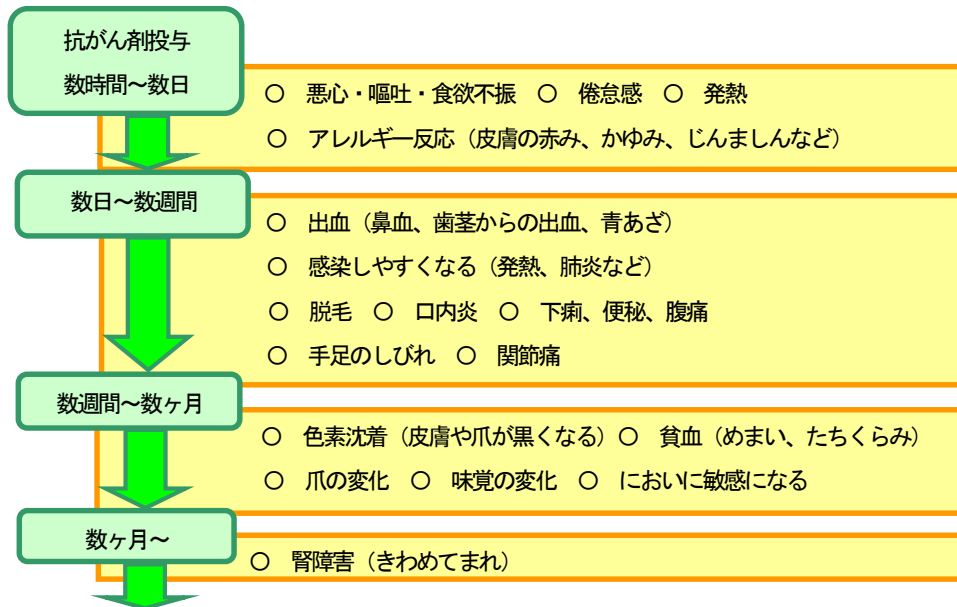
***上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【エブキンリ】

〔サイトカイン放出症候群〕 発熱、寒気、動悸、頭痛

〔免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群〕 意識の低下、手足のふるえ、頭痛

〔血球減少〕 発熱、寒気、鼻血、貧血

〔腫瘍崩壊症候群〕 意識の低下、尿量が減る、息苦しい

〔進行性多巣性白質脳症〕 けいれん、意識の低下、しゃべりにくい、手足のまひ

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。